



米子市埋蔵文化財センターたより

第2号

2011年9月

溝状遺構は「千号演習」塹壕跡か、道路か! —伯耆町伯楽塚遺跡—

3月から調査を開始した伯楽塚遺跡の発掘調査も、いよいよ大詰めを迎えつつあります。遺跡の中心となる丘陵尾根部の調査では、古墳時代の円墳3基と石棺6基を確認し調査地点が伯楽塚古墳群に連なる墓域として使用されていたことが判明しました。

しかし、これらの遺構群は、尾根の中心部に構築された大規模な溝状遺構によって削平されており、現状はかなり改変を受けていることが明らかとなりました。この溝状の遺構は、検出した長さ50m、幅4m、深さ0.5m程度あり、溝の底面には凸凹状に掘り込まれた遺構が存在しています。こ



発見された道路状遺構

れまでの研究では、こうした遺構は道路状遺構として報告される事例が多く、米子市内でも「橋本徳道西遺跡」で同様に凸凹のある遺構が確認されており、道路であろうとの見解が示されています。今回確認した遺構は、底面が砂と粘土で叩き締められたように硬くなっており、基礎となる部分を入念に整備していた様子が窺えますが、実際に道路として使用したようなへこみや風化した痕跡が見られないことから、使用時の状況を窺うことができません。また、丘陵の西側では幅6m、深さ2.5mの大型の溝を確認しました。この遺構は太平洋戦争末期に計画された本土防衛計画、いわゆる「千号演習」に関連する塹壕跡と考えています。同様の遺構は高知県南国市の向山遺跡でも確認されており、「交通壕」と呼ばれる陣地と陣地をつなぐ通路として使用されていたようです。

現在、遺構の性格について様々な角度から検討していますが、造られた時期がはっきりしないことから、「千号演習」に伴う道路遺構なのか、あるいは古い時代の遺構なのか、明確な答えを見つけ出せない状況です。しかし、伯耆町内でこれだけ大規模な工事が行われた事実は、歴史的に見て近世の「佐野川用水」の工事と「千号演習」に伴う防衛陣地の構築以外に考えにくく、現状では後者の可能性がより高いように思えます。とはいえ、道路下面を凸凹状に掘削する施工技術は、現代の道路工法ではほとんど使われず、はたしてこの技法が昭和20年代にまで存続していたものか疑問が残ります。今後は、地元の方々や「千号演習」に参加した方の聞き取り調査なども実施して、この遺構の性格を明らかにしたいと考えています。(佐伯)

発掘調査情報

境矢石遺跡では、丘陵東側（4・5区）の調査が終了し、現在は南側斜面部（6区）の調査を行っています。今までの調査結果、調査地では弥生時代前期から中期査のまで丘陵裾部に木棺墓群が形成されていること、弥生時代後期から古墳時代前期になると、丘陵頂部付近に段状の平場を造成して集落が形成されること、古墳時代中期以降集落は丘陵低位に設けられるようになること、奈良時代には斜面裾部を段状に削平したテラスに廃滓場などの作業空間が設けられることなどが解



X形の異形石器

ってきました。出土遺物では、弥生式土器、土師器、須恵器等の他、特異なものとしてX形の石器が出土しました。長さ5cm、幅3.8cm、厚さ0.7cm、重さは7.3gと小型のものです。この形の石器は島根県の神原Ⅱ遺跡などで出土しており、縄文時代の石器と考えられていますが、その性格、用途についてはよくわかっておりません。今回出土した石器は丘陵裾部の古代の遺構の上面から出土しており、丘陵上から混じり込んだ可能性が考えられます。

調査は来年3月まで行われ、調査予定地では既に横穴墓などが存在することも分かってきました。今後の調査により、遺跡地の歴史的様相がより一層明らかになることが期待されます。（濱野）

整理室だより

境矢石遺跡の整理から

境矢石遺跡の整理作業は、現在、昨年度調査を行った2区の実測と3区の接合を行っています。

2区と3区からは弥生時代から中世の遺物がたくさん出土しています。なかでも、弥生時代前期後葉から中期中葉の列状に配置された土坑状の溝の中から、ほぼ完全な形をした土器が出土し復元されました。これらの土器は墓の埋葬儀礼に関わるものと推測されますが、出土した遺構とともに謎が多く、その性格の解明に向けて、今後さらに検討していきたいと思えます。（高橋）



2・3区の溝の中から出土した土器

目久美遺跡は、1933年の新加茂川開削時に地元の清水安造氏によって発見され、翌年に京都大の梅原末治が調査を行い、以後、山陰を代表する縄文・弥生時代の遺跡として知られてきました。

1953年には県道拡張に伴い佐々木古代文化研究室によって調査され、縄文前期～弥生中期の遺物が多数検出されました。1982年には新加茂川拡張に伴い大規模な調査が行われ、弥生中期の水田跡が検出されると共に、縄文中期の貯蔵穴群も確認されました。以後、開発に伴い数次にわたり発掘調査が実施され、目久美遺跡の姿を具体的に物語る多くの遺構・遺物が検出されました。

なかでもこの間の調査で発見された大形用水路や小水路、堰の遺構は、弥生時代の農業水利体系がかなり整備されていた事を物語っており、水利で結ばれる上流の弥生遺跡群との農業共同体関係や政治的関係を考えさせられる遺構です。(小原)



大型用水路(上)と小水路・堰(下)

コラムー縄文遺跡を掘る ①早期 ー上福万遺跡ー

1983年、中国横断自動車道岡山・米子線の工事に伴い鳥取県教育文化財団により上福万遺跡が調査されました。

縄文時代早期の集石 31基、土坑 58基をはじめ多数の土器・石器が検出されました。遺跡は大山西麓の佐陀川の扇状地に立地し、遠く日本海を望むことができます。

主な出土土器は、山形や楕円を刻んだ棒を転がして文様をつけた押型文土器です。復元された写真の土器は尖底で砲弾形の高さ 56 cmの大きな土器です。

今から 8 千年前に大山山麓で暮らしていた縄文人たちは、この大きな土器を囲んでどんなごちそうを食べていたのでしょうか?(小原)



センター・資料館日誌

- 7月3日 考古学講座「弥生時代のよなご」開催。受講者15名。
- 7月4日 南部中学校生徒の職場体験を受け入れた。
- 7月22日 米子市教育文化事業団連携事業体験ツアー「勾玉づくり」を埋文センターで実施した。参加者小学生23名。
- 7月25日 林業労災防止協会の刈払機取扱作業講習会を開催した。
- 7月28日 北九州市・佐藤氏 調査来訪。
- 8月1日 岡山県・米田氏が境矢石遺跡出土玉類調査で来訪された。
- 8月8日 「勾玉づくり火起こし」を尚徳なかよし学級へ出前事業する。
- 8月10日 岡山理大・白石氏陶器調査来訪。
- 8月18日 福成大坪上遺跡の調査が開始された。
- 8月24日 鳥取市万葉博物館から資料借用に来訪された。
- 8月27日 よなご88探宝会が、埋文センターと福市遺跡・資料館を見学。
- 9月2～4日 台風12号により各階で雨漏り発生。校庭南法面が一部崩落し民家へ土砂が流入した。
- 9月11日 考古学講座「古墳時代のよなご」開催。受講者15名。

編集後記

台風12号の直撃で米子市埋蔵文化財センターでは、雨漏りや旧校庭の南側の法面が崩落しましたが、甚大な被害は免れました。秋は行事や調査も本番となり、職員は忙

行事案内

しくなりそうです。

「史跡・青木遺跡ガイドツアー」

史跡青木遺跡の様子を発掘当時のスライドと出土品による解説を行った後、現地の遺跡を巡ります。

開催日 10月23日(日)

開催時間 午後1時30分～午後3時30分

参加費 資料代100円

申込方法 電話・FAXで下記まで申し込み
0859-26-0455

現地探訪「上淀の秋を楽しむ」

上淀白鳳の丘展示館や周辺遺跡の解説を聞きながら散策します。

コース 上淀白鳳の丘展示館→石馬→上淀廃寺跡→向山古墳群→白鳳の里(昼食)
途中、お茶・お菓子のサービスもあります。

開催日 10月30日(日)

開催時間 午前9時30分～午後1時00分

参加費 1,800円(昼食代・入館料含)

定員 70名 先着順

申込方法 電話・FAXで、住所・氏名・電話番号を下記まで申し込み下さい。
米子市淀江文化センター
電話0859-39-4050
FAX 0859-39-4051

発行日 平成23年9月30日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 米子市教育文化事業団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp